

砂山保育園ちびっこ自然調査隊事業 (北九州地区幼児体験活動実行委員会)

1 プログラムの概要

(1) ねらい

- 「自然」について五感で感じ、それらを子ども達の視点で記録(写真)に残す。
- 山中での調査活動や草木染め等を通して、動植物に関する実体験に基づいた知識の獲得を目指す。

- (2) 期間・場所
- 平成19年7月20日(金)～21日(土) (1泊2日) 体験活動
福岡県立社会教育総合センター
 - 平成19年7月23日(月)～26日(木) 体験活動
砂山保育園
 - 平成19年10月28日(日) 写真展・報告会
砂山保育園

(3) 参加者数 園児：35名 引率者：10名 指導者：3名

(4) 日程

| 時間 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | | | |
|--------|---|---|---|---|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|---|
| 20日(金) | | | | | 出 | 入 | 活動 | 昼 | 調査活動 | | | お休 | 異 | 集 | 異仕 | 夕 | キャン | 他団 | 入浴・ | 就 |
| | | | | | 発 | 所 | 準備 | 食 | | | | や | 作 | い | 掛 | 食 | ドルの | 体と | 就寝準 | 寝 |
| | | | | | 式 | | | | | | | っ | | | | 集 | 交流 | 備 | | |
| 21日(土) | 起 | 朝 | 集 | 朝 | パン | 草木 | | パ | 昼 | 退 | 出 | 到着 | | | | | | | | |
| | 床 | の | い | 食 | 作り | 染め | | 受 | 食 | 所 | 発 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 1 | | 取 | | 式 | | | | | | | | | | |
| 23日(月) | | | | 登 | 草木 | | 昼 | 草木 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 園 | 染め | | 食 | 染め | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 2 | | | 3 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(5) 主な活動状況

ア 自然調査活動 (1日目10:30～11:30、12:30～15:00、2日目5:30～6:30)

- 準備するもの カメラ(各子ども)、雨合羽、水筒、虫除けスプレー、傷薬
- 子どもの様子 非常に好奇心旺盛で様々な所に興味を示す。何か発見があると友だちと分かち合いたいようで、大きな声で友だちを呼んだり、その場から離れず見つけた動植物などを注視する。また、カメラで記録することも楽しいようで、しきりにシャッターを押していた。
- 留意点
 - ・山道での散策活動になるので、事前のルートの確認、大人の配置を決めておく。また、不測の事態のために連絡する順序を決めておく。
 - ・子ども達の興味、関心を引き出すような声掛けは必要であるが、教示的な声掛けは子どもの興味の幅を狭めるため避ける。
 - ・天候の変化を見ながら、迅速な対応が必要である。



イ 草木染め (2日目8:30~11:00、3日目9:00~12:00、12:30~14:30)

- 準備するもの 染料となる草や木、各種薬品、道具、木綿の布
- 子どもの様子 大部分の子どもにとって、活動自体の意味(染色すること)に気がつくのは、最後に自分の布が染まったのを見てからのようである。材料の採取から染色までに一日休日を挟んだこともあるが、一連の作業は短時間で終わるものの方が、子どもの理解にとっては好ましいと思われる。しかし、時間をかけた分、所有物(染色した布)に対する思い入れは強くなったようである。
- 留意点
 - ・薬品や必要な道具が多いため、経験を持った指導者が不可欠である。
 - ・採集した植物で染色がうまくいかないことも考慮し、必ず染色できる身近な植物(タマネギの皮等)を準備しておく。
 - ・子どもが、活動に一貫性を持てるよう配慮する。



2 子ども・保護者等の感想

(1) 子ども(家で話したこと等)

- 雨が降っていたことを残念に思わないくらい虫の話をしていた。
- お風呂では先生方や園長先生が洗ってくれたよ～、など人のふれあいの話も多かった。
- 班に分かれて活動したことは、自慢のようで“自分たちで”という思いがとても強く感じた。

(2) 保護者

- キャンプに行き、本人たちがどのようなことを目的とした活動をするのか、きちんと分かって出発していた。そのためこの合宿がかなり楽しみだったと思う。
- 当日天候が悪く雨が降っていましたが、雨ガッパを全員分用意してくださっていたようで、雨天時の体験というのも普段なかなかすることはありません。子ども達の記憶に残るものと思う。

(3) 指導者等

- 非常に大変な活動であったが、やってよかったと思える子どもたちの反応だった。
- グループで話し合う機会を多く持つことで、なかなか意見が言えなかった子も言えるようになってきた。

3 成果と課題

(1) 成果

- 子ども達が感じたことは、プログラム立案の際に予想したことを大きく越えるものであり、子どもにとっての自然体験の意味とは、知識の獲得のみに留まらないことが分かった。
- 保護者の感想から、子どもの精神面の短期的発達に寄与したことが推察される。
- 現代の社会的な状況の中にある保護者のニーズにも即していることが確認でき、自然体験活動の意義はその点についても大きなものであるといえる。

(2) 課題

- 実体験に基づいた知識の獲得を目的としていたが、自然体験から得られるものはそれに留まらなかったため、より高次の目的設定が課題である。
- 天候面への配慮はしていたが、晴天時と比べれば制限される内容が大きく、立案の際の課題である。